

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会 意見概要

(福井地区 (福井市))

[人づくり]

- 人づくりについてのこれまでの議論は、青少年教育に限定されているように思う。今は、生涯教育の時代であり、大人、高齢者のスキルアップも大事である。
- 人口減少の時代で若者をどう育むかが重要である。また、三世代が地域でふれあいや連携を持てるような展開が、地域、自治体単位で必要である。
- 若い世代がお年寄りと交流する場が増えれば、福井の良さを実感できるのではないか。
- ビジョンの中に、福祉教育の視点を組み入れて欲しい。地域福祉活動計画を作るためのワークショップを開催したところ、特に中学生が地域に支えられ、地域の温かさに育てられたと実感しているという声が出ている。
- 学力と仕事の能力が一致しないと感じる。学力以外のものが欠けているケースもあるが、学力が生きる教育システムを真剣に考えなければならない。
- 私たちの地区では児童館が手狭になり、学校の空き教室を利用するよう市から指導があった。児童館は定員40名で増築すれば10～20名が入れるがそれに対する補助制度がない。人口の増加している地域とそうでない地域があり、実態を把握した方策をたてて欲しい。
- 県農林総合事務所と農業者は深い接点がある。直接深い話ができるので普及員を200人台に戻して欲しい。それにより、原料生産だけでなく、加工、販売を一体として、県外に売り出すことができる仕組みづくりや、人づくりに繋がるのではないか。
- 現在は、情報、技術がオープンになり、過去の蓄積があれば今後も活躍していけるという保障はない。国の産業政策、進むべき方向性に合わせた教育が必要。特に英語、コンピュータに力を入れていくべき。
- 優れた教育システムを作り上げても最終的に問題になるのは家庭教育であると感じる。家庭教育に軸足を置けば、様々な問題が解決できるのではないか。
- 今もこれから10年も、福祉、介護、医療が大事で、家で安心して暮らせる高齢化社会を作っていかなければならない。福井県としてこのような考えのもと、高齢社会への対応策を講じて欲しい。

〔元気なコミュニティづくり〕

- 高齢化社会に向けては、病気を予防して長患いさせないことが大事。そのためには検診の強化、つまり患者の背景やその地域の環境を良く知っている「かかりつけ医」、「近医」での個別検診の普及が必要である。そのためには、まず、各種疾患に有効な予防ワクチン（インフルエンザ、肺炎球菌、子宮頸がん）をぜひ、公費助成していただきたい。
- 病気になったら、在宅医療の充実が重要であるが、一般市民、病院の先生には浸透していないので、行政により啓発していただきたい。さらに、患者を24時間365日診るのは、在宅主治医だけでは不可能なので、副主治医が必要。県として独自で副主治医にも報酬を与える制度を作り、福井型の介護医療を確立して欲しい。
- 今回のビジョン現在案では、介護予防の部分が薄い印象がある。介護予防のしっかりした位置付けをして欲しい。
- 福井市の自治会型デイホーム事業は効果があり、大きな取り組みとなっているので、継続していけるよう県としても応援して欲しい。
- 認知症の方、知的障害者、精神障害者が悪徳商法、トラブルに巻き込まれている。国が日常生活自立支援事業を行っているが、県としても対策を講じて欲しい。
- 高齢者の方を集めて様々な活動を行う団体が多いが、活動に対する評価が低いように感じる。評価が低いと意識も薄れていくので、ビジョンにこういう団体を支援していくことを盛り込むとよい。
- 今後、コミュニティを活かして行くということは、かつてのように、100人が100人全員が、1人で生きていけないので100人が皆で助け合うのではなく、100人のうち5人、10人の困っている人を助けるコミュニティを作っていかなければならないのではないかと思う。このような考えに立った時、従来のコミュニティに対する考えがどれだけ役に立つのか的確に捉えなければならない。
- 町内にマンションがあると、マンションに誰が住んでいるのか分からない。マンション・アパート住民にどのようにコミュニティに参加してもらうのか、あるいは、新しい家族の形として確立させていくのか判断が必要。
- 働くお母さんは、子どもの世話や家事に手いっぱいである。仕事と子育ての両立に悩んでいるお母さんが多く、お父さんのサポートが必要。
- 福井県は大病院志向が強いが、最近は病診連携が進み、大病院からの逆紹介が増えている。「かかりつけ医」、「近医」により顔の見える検診ができればホームドクター制に近づける。
- 一番身近な地域の拠点が公民館である。公民館を中心に地域コミュニティが形成できるとよい。小学校単位で存在し、問題が小さなうちから解決できる。
- 公民館は地域コミュニティの中心になり得る。様々な団体の事務局はやめ、もっと自治能力を高めるための人を育成していくべき。

- 先進国は小学校区単位でコミュニティが成立している。コミュニティづくりの視点を考える時、生活環境の健全化として、安心・安全なまちを作り上げていくことが大事である。

〔環境〕

- 経済、産業の発展も大事だが、将来福井は、オーストラリアのバースのような「緑豊か」や「住みやすい」と形容されるようになって欲しい。
- 林業は、森林の荒廃、後継者問題など危機的な状況にあるが、最終的には木材価格の低下に行き着く。木の価格は安くてもよいが、木をどんどん使って欲しい。県産材を使った建築の推進や土木工事への活用を進めていただければ林家も元気になる。
- 農業は、村、まちに産業を興すという視点が必要。生産から販売、地産地消、環境産業、観光までを含めた立体的なモデル地区づくりを進めるべき。
- 県民の意識レベルに差がある。PRが行き過ぎた感もあり、腰を落着けた取り組みが必要。
- 民間企業は、環境に配慮するとコストがかかり負担となるが、規制により貢献している。CO₂排出は家庭の方が多く、環境保全意識を高めてCO₂削減に取り組むべき。

〔まちづくり〕〔産業〕

- これまでのテーマは全てまちづくりに集約されるのではないか。まちづくり、人づくり、環境のいずれかを中心に置けば全てが関連しあい成立する。それぞれを別に考えるとコストや労力が係るので、重複できる部分はいっしょに進めるべき。
- 高速交通網の整備により、福井のどこをどう人が流れれば、短時間で福井の魅力を感じ、知ってもらうことができるのか、情報発信力と体系づくりが重要。また、県民がその情報を提供、発信する機会を増やすことが大事。
- 東アジアを産業のマーケットと考えた場合、福井が供給者となり得るかどうかを考えなければならない。産業の大規模化が必要である。
- 交流人口でなく、定住人口を増やすことを真剣に考えるべき。そのためのツールとして東アジアを活用すべき。
- 若者が大学等卒業後福井に帰ってこないのは、大きな産業が欠けているからである。優秀な人材が育つ産業、また優秀な人材を活かせる産業の誘致を進めるべき。

- まちづくりの推進には、世代間の交流活動、地域における交流活動を活発化する必要がある。行政として、指導、助成を考える必要がある。
- 新幹線が来るであろう10年後には、福井城跡は、歴史のシンボル、まちのシンボルとして考える必要がある。
- 福井城は結城秀康が築いたので、結城秀康のことをもっと勉強してまちづくりに役立てて欲しい。